


第14回（平成30年度 第2回）横浜市自転車等施策検討協議会 議事録	
日時	平成31年3月6日（水）9:45～11:10
開催場所	情文ホール
出席者	委員：委員名簿を参照 事務局：5名    コンサルタント：2名
資料	次第、委員名簿、説明用資料、参考資料
<p>1. 開会</p> <p>①開会あいさつ</p> <p>（事務局）</p> <p>※開会あいさつ後、会議の公開等に関する説明</p> <p>※事務局より、3月1日付で新たに委員に就任いただいた 神奈川県警察本部 交通規制課 課長補佐 苅部委員を紹介</p> <p>※以降の議事進行を議長に引き継ぎ</p> <p>※事務局より配布資料について確認</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）計画素案に対するパブリックコメントの実施結果について</p> <p>（事務局）</p> <p>※資料を用いて、「計画素案に対するパブリックコメントの実施結果」に関して説明</p> <p>（岡村会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの実施結果について、何か発言はあるか。</li> <li>・意見の提出方法として、郵送が多いと感じた。電子メールでの受付があまりないのか。</li> </ul> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子メールの方は7名。ほとんどの方からは、概要版パンフレットに付いているハガキで意見をいただいた。パンフレットに付いたハガキだと郵送料金がかからないということもあり、手軽に意見を提出できたと考える。パブリックコメントは主にパンフレットで周知を図ったため、郵送による意見提出が多くなった面がある。</li> </ul> <p>（岡村会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出通数について、事務局ではどのような評価をしているか。</li> </ul> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車総合計画策定時のパブリックコメントが50通程度であり、それを上回っている。道路局で最近実施した他の市民意見公募よりも多く意見をいただいている。</li> <li>・市内18区の各区連会で説明したこともあり、多くの意見をいただけたと理解している。</li> </ul> <p>（曾我委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道幅が狭く道路を安全に走ることができないという意見に対し、本市の実情を踏まえて、道路ネットワークの整備を進めると回答していることへの補足だが、横浜市は都市計画道路の整備率が政令市の中でも低く、都市計画道路のネットワークが整備されることにより、交通量がシフトし、生活道路への車の交通量が減少し自転車が走りやすくなる、という考えで回答を作成している。</li> <li>・実例として、泉区内の権太坂和泉線の整備が完成し、泉区役所に近い生活道路の交通量が大幅に減少したということがある。</li> </ul>	

(2) 横浜市自転車活用推進計画（原案）について

(事務局)

※資料を用いて、「横浜市自転車活用推進計画（原案）」について説明

(岡村会長)

- ・本日の主要議事となる。いろいろと発言をいただきたい。

(大石委員)

- ・第Ⅲ章「計画が目指す姿」により、計画の基本理念が明確になり分かりやすくなった。
- ・前回の協議会において、都心臨海部と郊外では自転車の利用環境が異なるのではないかとお伝えしているが、可能な範囲で都心臨海部と郊外部の書き分けをしている。
- ・具体的には、「まちに適した駐輪対策」や、都心臨海部におけるペイバイクの活用、さらに、まちづくりと連携した自転車活用という記述があり、大変分かりやすくなった。
- ・パブリックコメント実施結果では、駐輪場がまだ不足しているという意見が多い。そのため、公共空間を活用した駐輪対策が、これから求められるのであろうと思う。
- ・曾我委員が発言された道路ネットワークの整備は大事な話であるが、長期的な対策であるため、道路脇の雨水枡をタイヤがはまりにくいものに変更する等、できることをやっていくことも大事。

(事務局)

- ・駐輪場に関する意見が多かった理由の一つは、パブリックコメントの概要版パンフレットを市営駐輪場で配布したことによると推測している。個々の駅周辺の実情に応じて対応していく中で、公共空間の活用も検討する。

(野田委員)

- ・パブリックコメントでは、自転車レーンに駐車車両が多く、走りにくいという意見がある。
- ・自転車を歩道から下して車道を通行させることで車と自転車が混在する中、いかに駐車させないか、そういう空間をいかにつくるか、というのが県警の最大の駐車対策の目的。
- ・駐車取締では、警察官だけで対応しきれない箇所に駐車監視員を配置しているが、駐車監視員は、ガイドラインで指定されたエリア・路線でしか活用できない。自転車通行空間整備実行計画について、ガイドラインとの整合性を調整しないと、連携した対策ができないのではないかと。駐車監視員による確認の強化だけでなく、ガイドラインとの整合性も考慮した通行空間整備とすべき。
- ・利用率の悪い箇所のパーキングメータ、パーキングチケットの撤去を現在推進しているが、地域住民や商店会の方々などの合意形成も必要となる。

(事務局)

- ・自転車レーンの駐車車両を取締まってほしいという意見があるため、計画の推進にあたり、駐車監視員の活動ガイドラインを踏まえた連携を進めたいのでご協力いただきたい。
- ・パーキングメータ、パーキングチケットの撤去では、地域住民との合意形成は重要であると認識している。県警と連携して進めていきたい。

(八郷委員)

- ・路線バスの事故で、6割から7割を占めるのが車内事故。ルール無視の自転車が急に横から現れ、急ブレーキをかけることにより乗客が転倒してしまうことが要因の一つである。
- ・交通ルールについては、特に小・中学校での周知啓発をお願いしたい。
- ・原案24ページの「日常の利用」の文中に、「自転車は日常での短距離の移動において、身近で便利な交通手段であり、他の公共交通とともに地域を支える移動手段」とある。“他の”という言葉では、自転車も公共交通と間違えてしまう。「公共交通の補完的な役割を担うもの」が正しい表現ではないかと。“他の”という言葉は必要ない。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり“他の”は削除させていただく。
- ・自転車のルールについては、パブリックコメントでも多く意見をいただいております、自転車の活用推進を進めるにあたり、安全・安心が大前提。

(岡村会長)

- ・“公共交通の補完”という表現は、役割分担することを表すもの。“補完”を明示的に表現するかは、基本的な考え方に大きな影響を与える。

(事務局)

- ・横浜都市交通計画は「自転車は、他の交通手段と街の中でバランスよく共存することが求められている」としており、自転車を公共交通として位置付けるのは困難だが、ペイバイクやシェアサイクルは、国で公共交通的な位置付けを検討している。
- ・“他の”の扱いについては、会長及び所管局とも調整し、計画案を修正する。

(岡崎委員)

- ・パブリックコメントの結果では「いかす」についての意見は一番少なく、「いかす」の視点での意見をあまり取入れられなかったのではないかと正直感じた。
- ・自転車活用は、使いやすい環境や、走りやすい環境が整った上で実現されることではないか。そこから、まちの賑わいづくりの観点でどのように自転車をいかすか、が大切。
- ・横浜が自転車で楽しめるまちということを、どこでどのようにアピールしていくか。
- ・外国人への対応には注意が必要と考える。言葉が分からない人がどう使うのか、どう走るのかということのインストラクションはとても大切なこと。対応が不十分で事故やトラブルが起きると、せっかく活かそうと思っても実現できなくなる。
- ・もう少し「いかす」のところにそのような視点があった方がよかったのかもしれない、というのが率直な感想。

(事務局)

- ・「いかす」は、指摘のとおり、安全に走る空間があった上で、初めて活かせるものであると考える。
- ・外国人対応については、放置禁止区域の表記の外国語対応や、ペイバイクの利用時における対応が重要と考えている。
- ・サイクルスタンプラリーの開催について案内したが、自転車の持つポテンシャルを観光に活かしていきたいと考えているので、横浜観光コンベンションビューローとの連携を深めていきたい。

(木村委員)

- ・市営駐輪場の定期利用の待ち期間に濃淡があり、駐輪空間が不足している駅もある。
- ・横浜市役所の市庁舎が移転すると、駐輪環境に大きな変化が起これると推測する。桜木町駅周辺は駐輪場があまりなく、駐輪需要を予測して対応しないと、放置自転車が発生してしまう恐れがある。
- ・駐輪場用地が限られる横浜駅などでは多層化を検討してもよいのではないか。
- ・2020年の市庁舎移転時に人の流れが大きく変わるため、それを視野に入れた対策を望みたい。

(事務局)

- ・市営駐輪場の定期利用待ちについては、駅別でも、駅周辺の駐輪場ごとでも差がある。
- ・2020年の市庁舎移転について、桜木町駅及び関内駅周辺における駐輪需要の変化に、どのように対応するか検討していきたい。
- ・横浜駅には、フリンジ部分に駐輪場を設けて、駅直近には歩行空間を確保するプランがあるが、なかなか市民に浸透しておらず、駅直近まで自転車で乗付けたいという利用者もいる。横浜駅では、大店法適用前の施設において駐輪場が設けられていない状況も数多く見られる。
- ・今回の計画では、新規建物に対する駐輪場附置義務条例の適用だけでなく、既存の建物にも駐輪場設置の努力義務があることをしっかりPRすることとしている。

(金子委員)

- ・今朝の朝日新聞に「自転車の活用 安全も安心も着実に」という社説が掲載されていた。
- ・観光などを含めて自転車をどう活用していくのかということは、これからの一つの課題。
- ・アフリカ会議開催期間中、大勢の外国人の来訪が見込まれているため、西区ではペイバイクを活用して、西区の名所を巡ってもらってはどうかと、自転車ルートを検討している。

- ・西区は山坂が多く、道路幅も狭い。ペイバイクは電動アシスト自転車であるため心配ないという一方で、外国人が集団で利用する機会が多くなると、駐輪場や各種交通の案内の問題をいろいろと考えなければならない。
- ・これからの自転車の活用について、皆で真剣に考える必要がある。

(事務局)

- ・山坂が多い横浜だが、最近では電動アシスト自転車が増えており、昔はバイクでなければ行けないような坂でも登って行くことができるというのは、最近の自転車利用の傾向。
- ・道が狭いという課題については、先程説明した道路ネットワーク整備を粛々と進めつつ、自転車通行空間の整備も合わせて、引き続き進めていきたい。
- ・日常からレジャーまで、自転車をうまく活用していきたいというのが、計画の趣旨。
- ・観光客に向けてどのようにルールを説明していくのかについては、原案 35 ページの施策③で「様々な機会を活用した交通安全啓発」という項目を設けており、国内外からの観光客に対してシェアサイクルの利用時と適切な機会を捉えて啓発を行います、と記述している。誰でも直観的にわかるようなピクトグラムを中心に、関係部署と相談して啓発をしっかり行いたい。

(岡崎委員)

- ・観光やMICEにおいてSDGsを意識した取組が求められている。SDGsの取組として横浜市がデザインセンターを設置したこともあり、自転車活用への理解促進のチャンスと考えるが、計画ではSDGsに関して触れているか。

(事務局)

- ・計画の3ページで、環境負荷の軽減などの地球温暖化対策実行計画と関連する計画と位置付けているが、SDGsという言葉は計画に含まれていない。SDGsに関しては、温暖化対策統括本部と今後何ができるか、現在アイデアを交換している状況。計画でも環境に配慮した取組をベースとしており、具体的にSDGsの視点を踏まえて進めていきたい。

(岡村会長)

- ・大変重要な指摘であり、市がSDGsをどのように施策へ位置付けるか、もう一つ踏込むべきと考える。
- ・本日の協議会で、この原案について議論するのは最後になるかと思う。個々にいろいろ意見が出たので、庁内で検討し、反映できるところは是非反映してほしい。
- ・その対応も含め、本日の意見を踏まえて原案をほぼ確定することで皆様よろしいか。

(委員了解)

### (3) 策定スケジュールについて

(事務局)

「策定スケジュール」に関して説明

(岡村会長)

- ・スケジュールと全体を通じて何か意見があればいただきたい。
- ・急ぎのスケジュールで進めてきたが、策定して始めることが大事である趣旨の計画だと思う。
- ・本日の議事を終了する。

(事務局)

- ・次年度以降も協議会を継続。開催日時等については岡村会長と相談し、後日改めてご案内する。

## 3. 閉会

(事務局)

※閉会あいさつ

以上